

国土交通省 スーパー・メガリージョン構想検討会

スーパー・メガリージョン構想 と九州経済

2018年3月15日

株式会社 **安川電機**

代表取締役会長 津田 純嗣

スーパー・メガリージョン構想検討会の論点を踏まえ

【論点1】経済・産業構造や、人々の暮らし、価値観等が今後大きく変わっていく中で、リニアやその他の高速交通ネットワーク（新幹線、高速道路、航空等）等の整備によって、交流・対流に要する時間の劇的な短縮が、ビジネススタイルやライフスタイルにどのような影響を及ぼす可能性があるのか。

①経済・産業や、人々の暮らしのスタイルや、価値観は、リニアの整備が進む中長期間に、どう変化する可能性があるのか。その変化において、人の移動に要する時間が短縮することの意味は何か。

②リニアの開業及びその他の高速交通ネットワークの整備によって、例えば、つぎの点でどのような可能性があるのか

- ・新たな価値創造、研究開発、生産方法、働き方、取引関係の拡大、人材の獲得や育成方法などにどのような変化を生じさせる可能性があるのか

- ・大都市部の高齢者の生きがいや、若者・中高年齢者の自己実現や観光・娯楽・癒しなどに対するニーズの増大等暮らしの質の充実や、そのための新たなビジネスなどに、どのような可能性があるのか？

- ・海外から人や投資を引きつける国際的な魅力の向上について、どのような可能性があるのか。

③新たな交通サービスや交通基盤、都市環境などにどのようなことが望まれるか。

※尚、リニア開業の見通しは、東京-名古屋間が、2027年頃、東京-大阪間の開業が。2045年頃から最大8年間前倒しと想定されている。

I. 九州経済の位置

出典：公益財団法人 九州経済調査協会「図説九州経済2018」

1. 日本の中の九州：わが国の「1割経済」

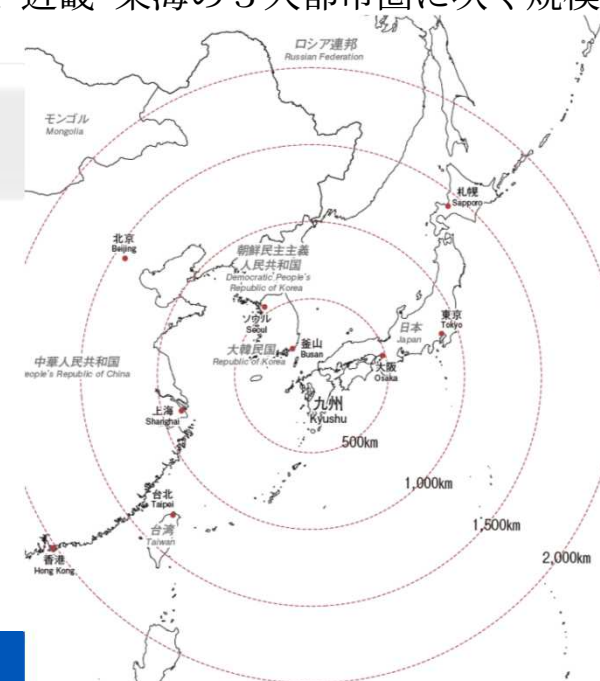
(人口、GRPは地方ブロック別で3大都市圏に次ぐ)

- 日本列島の南西部に位置し、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の8県で構成され、本州と関門海峡で隔てられた島々で構成されているため域内の相互依存関係が強い。
- 総面積は4万4,513km²で全国の11.8%(2016年10月)、総人口は1,441万人で全国の11.3%(2016年10月)
- 域内総生産(GRP)は47.9兆円(2014年度)で全国の9.3%を占め、主要経済指標(電力販売量、小売業年間販売額、建築着工額など)も全国の**1割前後**である。地方ブロック別にみると、人口やGRPは関東・近畿・東海の3大都市圏に次ぐ規模で、地方圏では最も規模が大きい。

2. アジアの中の九州：

成長著しい東アジアと日本を結ぶゲートウェイ

- 首都・東京から約1,000km離れている一方で、東アジアの主要都市と近い距離にある。(韓国釜山まで約200km、ソウルまで約500km、中国上海まで約1,000km)
- 地理的な近接性もありアジアとの経済的な繋がりが強い。
- 2007～2016年の九州・山口企業の海外進出件数433件のうち352件(81.3%)がアジア地域で占め、2016年の九州・山口の輸出総額のアジア比率は58.4%で全国より5.5ポイント高い。また、2016年の九州への入国外国人数もアジア地域からが96%と大半を占め、全国より12.2ポイント高い。
- アジアと日本との新たな物流結節点として博多港や北九州港の活用も増えている。



III. 九州の産業構造

出典：公益財団法人 九州経済調査協会「図説九州経済2018」

1. 主要産業：製造業

鉄鋼、化学、造船に半導体や自動車の立地が進む

- 主要産業は、全国と比較し第1次産業と第3次産業の比率が高い。
- 製造業は、北九州市・大分市の鉄鋼・化学や長崎市・佐世保市などの造船など重厚長大型産業であったが、近年九州各地で半導体関連産業や自動車関連産業の立地が進んでおり、九州はシリコンアイランド、カーアイランドと呼ばれる。
- 九州の自動車生産台数は**137万台(2016年度)**で**全国の14.6%**を占め、半導体の生産個数は**全国の30.7%(2017年度)**を占めている。

2. 主要産業：観光・リゾート

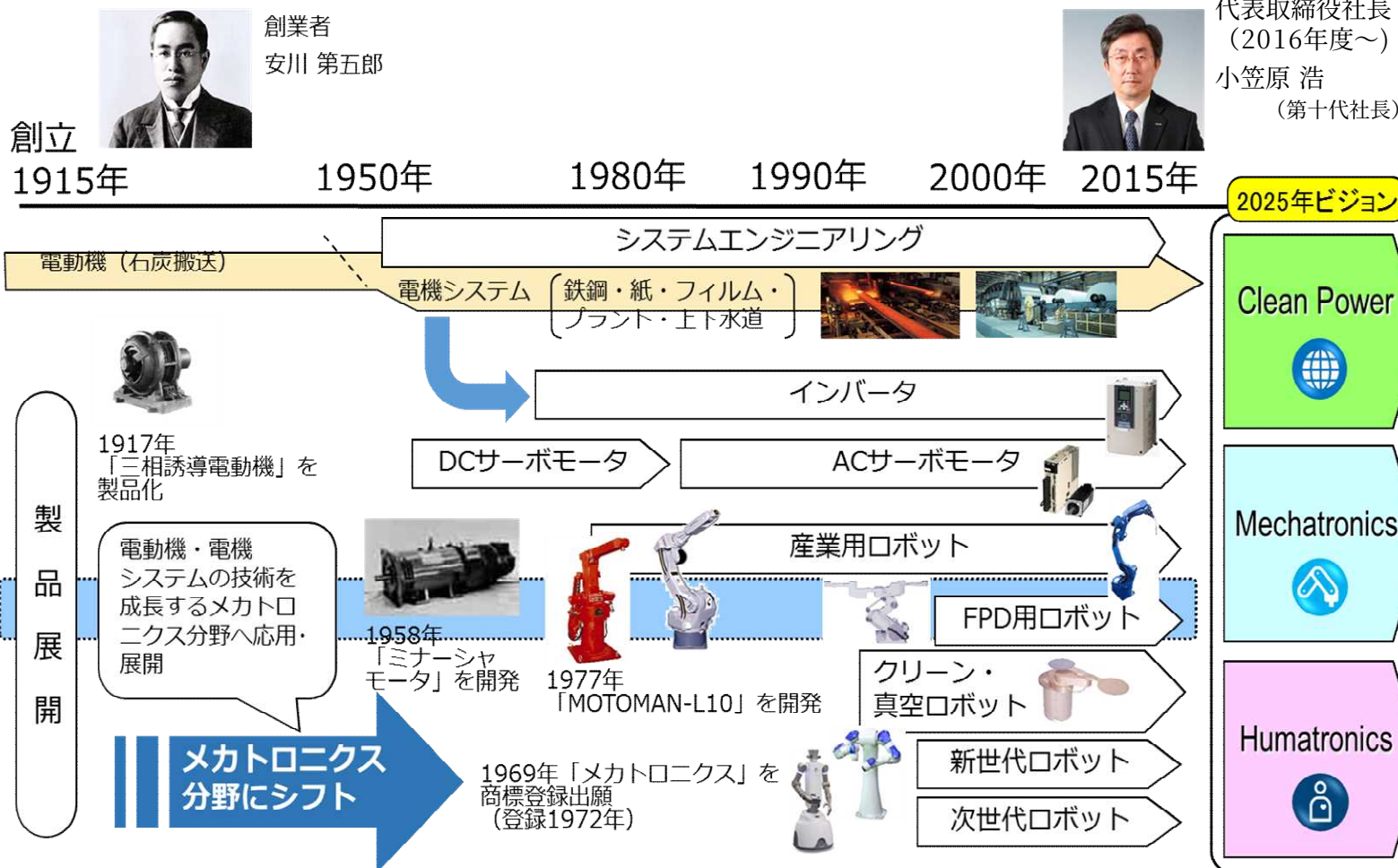
自然豊かな九州は南の観光拠点、世界遺産、温泉などで国内外の多くの観光客を惹きつける

- 阿蘇・くじゅう・雲仙・霧島・桜島などの火山群と別府・湯布院・指宿など国内の温泉数の約4割を占める豊富な**温泉群**。
- **世界自然遺産**の屋久島をはじめ「明治日本の産業革命遺産」「神宿る島 宗像・沖ノ島と関連遺産群」の**世界文化遺産**や大型テーマパークなど国内外から集客している。
- アジアからの外国人観光客の誘致にも力を入れており、2016年には過去最高の369万人まで増加している。また、九州が一体となって観光振興に取り組むために設立された九州観光推進機構は「温泉」を入り口とした九州観光の魅力の世界にアピールする。

IV. 安川電機（会社概要・事業変遷）

*本資料に記載の2016年度は、2016年3月21日から2017年3月20日までの連結会計年度です。

(2017年3月20日現在)



商号：株式会社安川電機
YASKAWA Electric Corporation

創立：1915年(大正4年)7月16日

本社所在地：福岡県北九州市八幡西区
黒崎城石2番1号

資本金：306億円

従業員数：連結 14,632名(臨時従業員含む)

売上高：連結 3,949億円(2016年度*)

主な事業：・モーションコントロール
・ロボット
・システムエンジニアリング

IV. 安川電機（経営ビジョン）

安川電機の2025年ビジョン

『コア技術の進化とオープンイノベーションの融合により、社会に対し新たな価値を提供する』

目指す姿

Respect Life

100年の技術の蓄積を生かし、生活の質向上と持続可能な社会の実現に貢献する。

Empower Innovation

新しい技術・領域・目標に向い、人々の心に「わくわく」を届ける。

Deliver Results

継続的な事業遂行力の向上により、ステークホルダーに確実な成果を届ける。

事業領域

Mechatronics

世界最先端の技術+オープンイノベーションで、新たな産業自動化革命を目指す。

Clean Power

安全で安心して暮らせる持続可能な社会を目指す。

Humatronics*

医療・福祉分野へのメカトロニクス技術の応用で、人間の能力がより生かされる社会を目指す。

*Humatronics/ヒューマトロニクス:
人間（Human）とメカトロニクス
（Mechatronics）を掛け合わせた造語



IV. 安川電機（事業概要）

セグメント別事業概要

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ACサーボモータ、コントローラ
- ・リニアサーボ
- ・インバータ など



ACサーボ & コントローラ



汎用インバータ

ロボット

【主要製品】

- ・産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接，塗装用途向け
 - FPD搬送，ハンドリング用途向け
- ・半導体製造装置用ロボット
- ・バイオメディカル用途向けロボット
- ・人共存型ロボット など



アーク溶接ロボット



新小型ロボット



バイオメディカル向け
新型双腕ロボット



人共存型ロボット

システムエンジニアリング

【主要製品】

- ・鉄鋼プラント用電機システム
- ・上下水道用電気計装システム
- ・大型風力発電/船舶用電機品
- ・太陽光発電用機器 など



連続鋳造設備



上下水道設備



大型風力発電/船舶用コンバータ・電動機



太陽光発電用
パワーコンディショナ

その他

【主要製品】

- ・情報関連事業
- ・物流サービス など

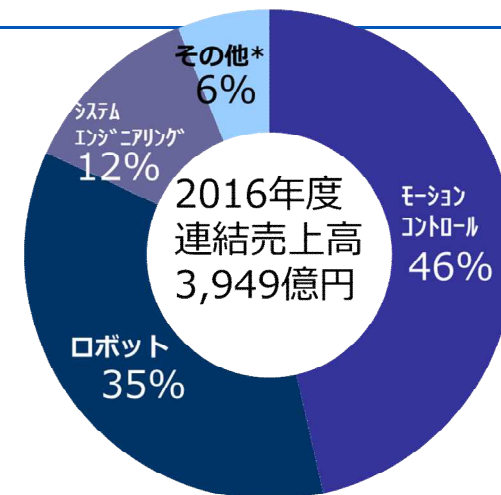


ハイパワーレーザ対応スキャナヘッド

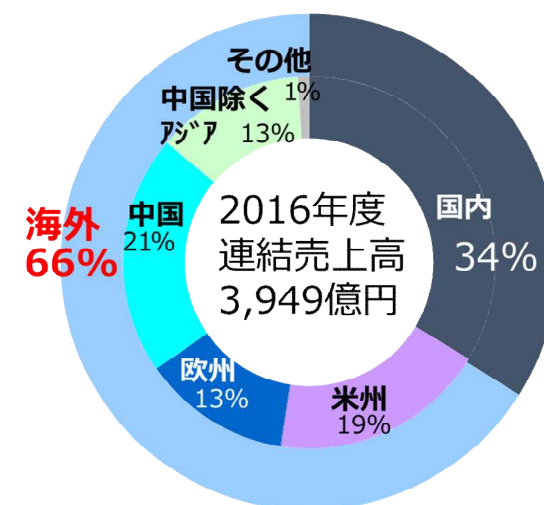


グローバル通信アダプタ
MMLink-3G

セグメント別売上高構成比



仕向先別売上高構成比

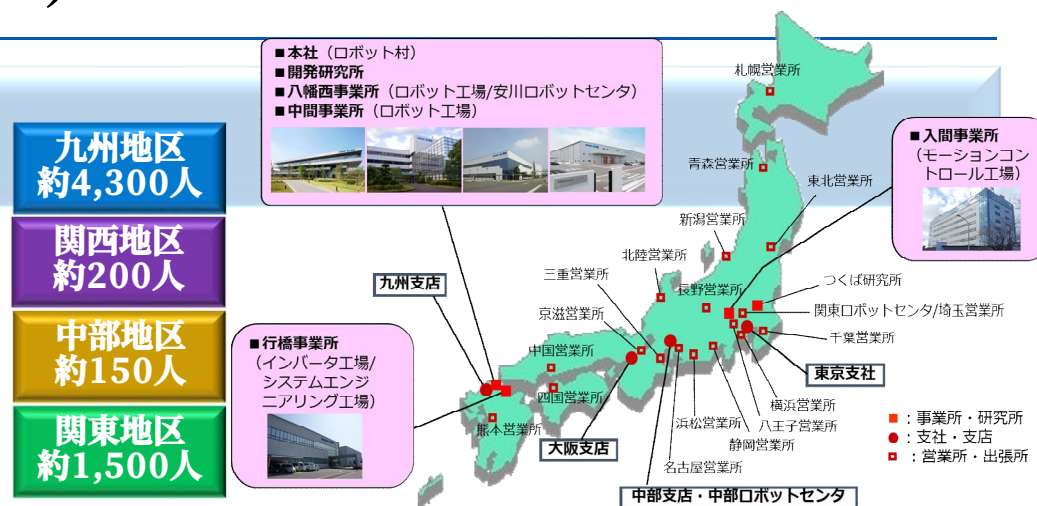


IV. 安川電機（九州の地から世界へ）

1. 地域別従業員数：約7割が九州

国内出張などの移動は一人当たり年間14回程度

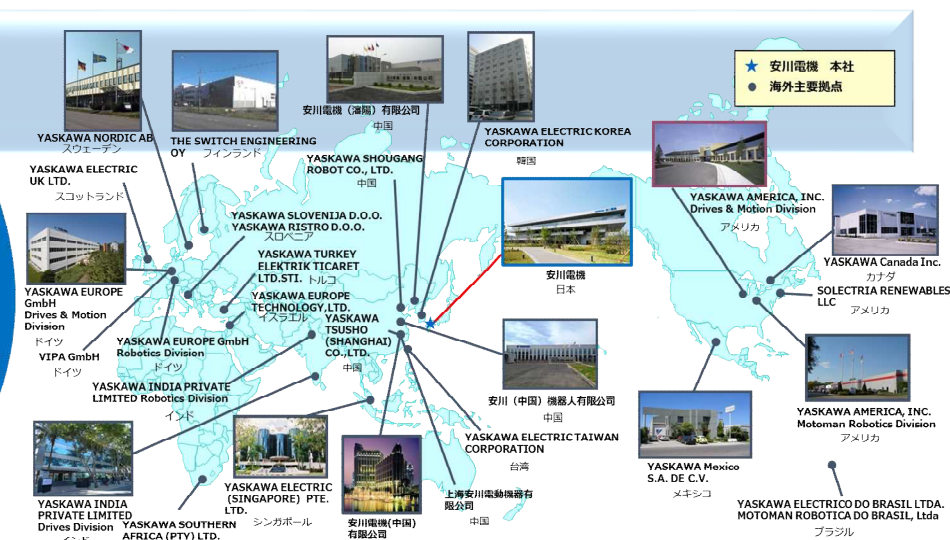
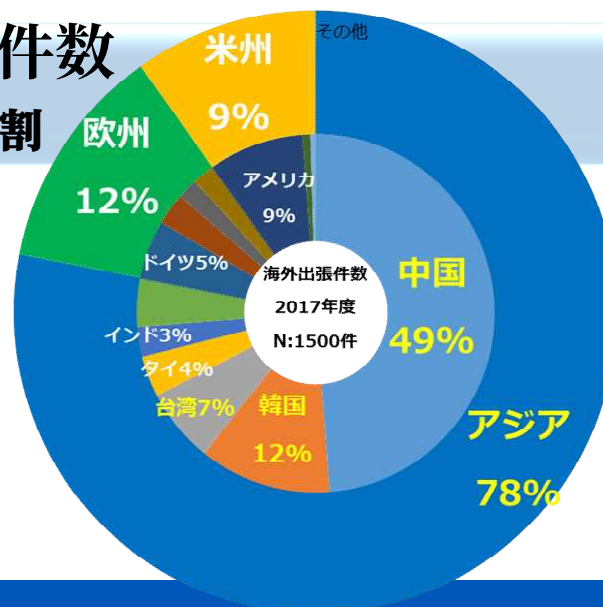
- 九州地区約4,300人, 関西地区約200人, 中部地区約150人, 関東地区約1,500人で九州勤務が全体の約7割を占める
- 国内の宿泊/日帰り出張件数は年間約42,000件で安川電機単体で一人当たり年間14回程度の出張が発生している。



2. 地域別海外出張件数

中国,韓国,台湾出張が約7割

- 海外出張は年間約1500件でアジア地域が約8割で中国,韓国,台湾で約7割を占める



IV. 安川電機が九州を拠点とする強み

◇経営の視点

- ▶ BtoCメーカーと異なり消費が多い大都市圏への進出（生産拠点の展開）に拘らないため経営コストを抑えられる。
- ▶ 人財獲得競争が激化(特に大都市圏で劣勢)する中、Uターン人財の囲い込みなど九州エリアでの競争優位性はある。
- ▶ アジア圏へのアクセス利便性が高い。（東京への移動時間より短いもしくは同等）
- ▶ 通勤時間の短さは労働生産性向上に寄与している。

◇従業員の視点

- ▶ 通勤時間の短さは多様なライフスタイル実現に寄与している。
- ▶ 大都市圏に比較し、職／住の距離感に応じた居住エリアの選択自由度が高い。
- ▶ 通勤、物価、医療、持家・資産形成の観点から大都市圏に比較し「生活のしやすさ」があり、よりワークライフバランスを実現出来る環境にある。

V. スーパー・メガリージョン構想に期待すること

高速交通ネットワークの整備によりヒト、モノ、カネ、情報の交流や対流に要する**時間が劇的に短縮**

九州経済圏への直接的なインパクトはないが・・・

➤大都市圏へのアクセスと九州エリア内の移動・アクセス利便性を高め、九州内の主要拠点の経済活性化と地方創生に繋げる

➤主要拠点（職＋居住地を中心とした生活エリア）内の移動利便性と主要拠点間のアクセス利便性の向上

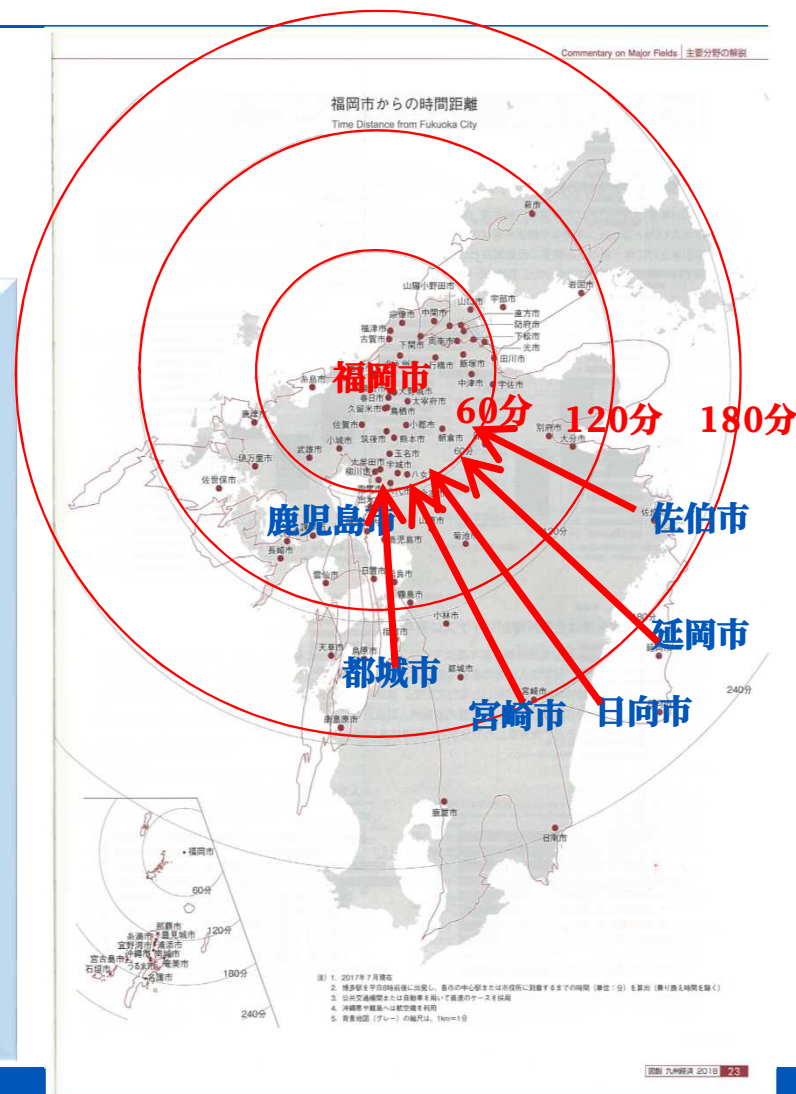
➤企業においてはワーク／ライフスタイルの変化に応じた処遇制度や管理のあり方を検討する必要がある

➤九州の「**主要都市間の移動時間短縮**」と「**主要拠点（生活エリア）内の移動利便性向上**」により、福岡一極集中を回避すべく更なる高速交通網の整備が急がれる。**建設中の東九州（複線化）／西九州／南九州西回り／九州横断自動車道と九州新幹線西九州ルート**

➤また、大都市圏とのアクセス整備として九州と本州を繋ぐ**下関北九州道路の建設**

➤海外アクセス網の更なる強化として空港拡張整備と日系エアラインの乗り入れ復活

➤域内の公共サービスの充実



YASKAWA

© 2018 YASKAWA Electric Corporation